（別紙4）　　平成　25　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3290400385		
法人名	社会福祉法人 出東福祉会		
事業所名	グループホーム出東ララ（西棟）		
所在地	島根県出雲市斐川町三分市1072－1		
自己評価作成日	平成25年2月25日	評価結果市町村受理日	平成26年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社ワイエム
所在地	島根県出雲市今市町650
訪問調査日	平成26年3月10日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・自然あふれる田園風景の中で、同法人運営の保育園園児とふれあうことにより、人を愛しみ、生命を守り、その人　らしさを大切にし支援していきます。
・利用者一人ひとりの「できること」を引き出していき、達成感と意欲を持てるようなサービス（花生け・野菜作り・料理・裁縫等）を提供し、その人らしさを発揮出来るような場を設けていきます。
・一人ひとりの利用者の気持ちに添い、心穏やかで明るい生活を維持出来る様援助していきます。また、ご家族と連絡を密にし、ご家族に安心感をもってもらうとともに、ご家族と利用者との絆を深める役割であることを認識し、支援していきます。利用者は、地域の中の一員であることにより、地域の特性や文化を活かし地域行事等の情報を集め、積極的に参加できる機会をつくっていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

斐川平野の広々とした風景を眺められる大きな窓、大木の梁や木の床など、木造りの建築は外観だけでなく中に入ったとたんに落ち着く。約五百世帯の出東地区では初めての入居施設として開設したホームは、小学校、幼稚園など、教育、福祉の中心に隣接しており、同法人のデイサービスセンターや保育園との協働により、子どもたちがホームに訪れて遊んだり、利用者さんが散歩で子どもたちとふれ合ったりできる。ボランティア活動も盛んで、さまざまな人々が訪れる。ホームからの働きかけで陶芸教室のメンバーが利用者全員のお皿の焼き物作りを手伝って作品を完成させるなど、開所一年目でありながら、地域に密接に関わり解放されたホームを目指して始動している。利用者さんは、地区からの入居がほとんどを占めており、家族もケアに満足している。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、（Altキー）＋（Enterキー）です。〕

自己	外部	項　目	自己評価 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の一員として、安心して暮らすことが出来るよう理念に基いて職員と共に共有して実践に繋げている	認知症になっても、地域での暮らしが続けられるということを、人々の意識に働きかけたいという施設長の思いは、理念にもある、「一人一人のできることを引き出すこと」から始めていき、利用者さんと職員が共に暮らすことを近隣住民に理解してもらうことであると職員全員が認知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	4月に開所したばかりであることから、地域との信頼関係を深めることの大切さに努力している。同法人運営である保育園・デイサービスとの繋がりから、地域の馴染みの住民との関わりを続けていき、事業所に関心を持っていただくように努めている	法人が今まで培ってきた地域住民とのふれあいや協力関係をホームでも継続しながら、地区で初めて開所した入居施設ならではの、終のすみかとしての居心地の良さや、個別の暮らしを創造していける可能性などをも、利用者さんと共に工夫していけるよう地域住民への働きかけを行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方等の研修や近隣小学生の学習の一環として、事業所の内容・高齢者の心理を理解し、支援に繋げていけるよう努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出東ララでの取組みを伝え、委員からの意見をその都度取入れ、振返りにて実践に繋げている	2ヶ月毎に開かれる運営推進会議では、ホームの活動のための意見やアイデアが活発に話される。意見で出たコミセン喫茶に、利用者さんが赴いてお茶や地域の人々と会話したことで、ホーム外での利用者さんの楽しみが実践できた。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	現状報告や相談等を面談や電話を通じて助言を頂きながら、日々取組んでいる	市の担当者とは、顔の見える関係を築いており、開所当初から、利用者が抱える様々な問題について相談したり、入院などで空いた部屋を短期入所として利用してもらうなど運営や制度のことも指導を受けてきた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、事業所内での考え方等を、職員間で話し合い、互いに勉強し統一したケアに取組んでいる	施錠はしないで、外へは自由に出られる。声かけや会話の中で、利用者さんの行動を抑制することのないよう日々のミーティングで話し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	職員の共通意識を図るとともに、専門職で従事していることへの自覚が持てるよう見過ごしのないように注意し防止に努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	学ぶ機会を持つよう努力している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	変更等ある場合には、必ずご家族に文章にて報告すると共に、面会時には、個別に説明をし、理解を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ご家族との清掃奉仕、家族会等には前もって案内文を出し、出来るだけ参加して頂くようにしている。又、面会時には管理者から声かけをかけ、日頃感じていらっしゃること等を話してもらう機会を設け運営に反映させるよう努めている	家族は、利用者さんについて、どんな暮らしをしているのか知りたいし、それを知らせることで、家族が本人の暮らしをイメージして、いろいろな意見が出せると考え、利用者さんの暮らしぶりを家族に伝えている。家族からは、本人についての思いや、職員さんやケアについての意見が出され、要望に応えている。	現在も、本人や家族の意見を取り入れ、運営に反映させているが、今後も継続し、事業所がよりよくなるためのヒントとして意見を聞き出してもらいたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に数回運営に関することや職員の意見や提案を面談方式で行っている	施設長、ユニットチーフ、職員が互いに意見を言いやすい雰囲気であり、利用者さんにとって良いことを、最大限取り組む姿勢があるため、職員は、日常の暮らしを豊かにするためのさまざまな提案をして、実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃の職員の表情や勤務に対する姿勢を見て気になる場合には、職員に声かけをしている。職員から自発的に話しが出来るような姿勢や機会、時間を設けている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	出来るだけ法人外の研修を受けるよう声かけはしているが、開所1年目であることからも、事業所内での業務に対する考えなども研修や学びの一つとして捉えて行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修情報を職員に通知し、積極的に同業者と交流する気持ちをもたせるようには努めている		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居決定時に面談し、現状の把握と面識を作り、安心感の構築に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申込み時に相談に乗り、入居決定時には実調査に行き、要望等聞き現状把握と信頼関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在必要とされているサービスを把握し、提案・助言を行い、個別に対応した支援が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に合った支援が行えるように、サービスの提供に努め、共に過ごせる場を持ち、支えあえる環境を築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日常的に、家族とコミュニケーションが取れるようにし、何でも話せる機会を持てるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場へ外出したり、面会があった時には、ゆっくり過ごしていただけるような場が出来る様努めている。	地元からの入居が多いことで、公民館でのふれあいで、知人に会える機会は多い。食事づくりのための食材や日用品の買い物で、近くのスーパーに行ったりして、会話するなど家族の面会だけでなく、馴染みの人に会える機会がある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の性格や暮らしぶりを把握し利用者同士が安心して交流できるよう努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されてからも、利用者様に面会に行ったり、家族様とも交流が持てるよう努力している。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望、意向を伺い、出来る限り対応出来るように努めている。困難な場合は家族にも相談し、ご本人にとってより良い状態が保てるよう考慮している。	認知症のために、自分の思いを表現できないことがある。暴言や暴行をする方が入居されたが、何故そうなのかを理解することで、対応を考えていくようにしている。その方は、今は、落ち着いて暮らしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活状況や環境を情報収集し、ご家族からも伺い把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日々の過ごし方、心身状態その方の出来る能力の把握に努めている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族からの希望を伺い、介護職員並びに看護師とカンフアレンス等を行い、日々のケアに活かし、より良い暮らしをして頂けるようなプラン作りに努めている。	2つあるユニット毎に介護支援専門員が配置されており、多くの情報をもとにアセスメントして、ケアプランが作成されている。認知症になってもその人らしい暮らしができるグループホームとしての介護計画となっている。家族も作成に参加し、計画を承認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の様子を日々のケース記録に残し又デイリープログラムへのプラン記入により実践をチエックし見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	空き部屋がショートステイで利用出来るようにし、個々のニーズに対応出来るようにしている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コミュニテーション行事や小学校行事に参加したり、ボランテイアと連携し、月数回楽しみの場を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望された主治医の往診を定期的に受けたり、ご希望の医療機関への受診をご家族と共に協力し支援している。	地元からの入居が多いことから、かかりつけ医に継続して受診できる。通院が難しい方には、在宅診療の医師が往診に来てくれる。家族は、本人の健康管理の応対に満足している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が在中しており、毎日相談し支援に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前後情報交換を行い、連携をとり、入院中は、状況把握に努めている。退院時にはカンフアレンスに参加し、関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末ケアについては、個々のケースに合わせて取組んでいる。職員間で話合いを行い、ご家族と連絡ノートをつくり、本人の様子を記入し、チームでの支援を行っている。	開所後一年未満であるが、最期は病院であったものの、その三日前までホームで過ごした方がおられた。今後も、それぞれの事情に応じた対応を目指したい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	主治医や看護師から定期的に研修を受け学んでいる。救急法については、消防署で職員全員が研修を受けた。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や地域の消防団や地域住民の方達にも参加して頂き全職員も参加し行った。水害時の避難経路についても運営推進会議内でも学び合えた。	地元の方の意見で、認知症の利用者さんが、怖がったりしてはいけないということから、地元消防団員40名が参加して、利用者役と救助役となり、訓練を行った。今後も法人、地域からの協力体制が見込まれている。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	対応の仕方や声かけ等、常に自分で心がけ職員間でも指摘を適宜行い振り返りを行っている。	部屋にはノックをしてから入る。排泄の誘導には、「ちょっとこちらまで」など、周囲にそれと悟られることのない声かけに気をつけている。また、それまでの人生における役職や立場などにも配慮した会話に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりの思いの表し方を把握し、本人に会った思いの表し方が出来るような声かけの努力を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	可能な限り希望に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	押し付けにならないよう、その人に合った身だしなみが出来るよう支援している。ご本人やご家族の希望を伺い、専門の理容・美容が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力に合わせ準備や片付けなどして頂いている。食事の形態も個々への対応を支援している。	隣接する同法人のデイサービスの厨房にメインディッシュを依頼するなど協力してもらうが、ほとんどは、ホーム独自で食事作りを行っており、献立、買い物など利用者さんも参加している。皆で食卓を囲み、ゆったりと、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士からの助言も含め、調理師・職員が栄養のバランスを考えてメニュー作りをし、食事作りをしている。また、主治医からの個々の栄養値データーも参考にしている。水分摂取量や食事量も個々の必要量を摂取して頂けるよう介助、支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の状態により使用するブラシを変更するなどして対応している。義歯は毎晩洗浄剤を使用し衛生に配慮している。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チエック表から一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導をし、可能な限り失禁のないよう支援している。	入居後約1週間で排泄パターンを把握した後は、トイレで排泄できるよう誘導している。繊維の多い食事、水分や運動など、排便への配慮も利用者それぞれに細やかな配慮をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘対策を個別に対応（水分・食材・運動）し、又下剤も用意しながらコントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望に添い、毎日入浴希望があれば対応している。拒否がある場合には、時間や声かけ等工夫をし、二日に1回は入浴して頂けるように支援している。	入浴の時間帯は、利用者それぞれで違えている。皮膚の乾燥などに配慮して、泡で洗ったり、石けんをあえて使わないなどしている。浴室は清潔で明るく、木の香りがしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調に合わせ休憩や安眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を基に看護師が配薬し職員が二重チエックし服薬して頂いている。状態の変化や症状の観察も行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出や行事への参加、個々の能力に応じた家事等なども行って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブやコミュニテイセンターへの喫茶、散歩、隣接保育園への訪問バルコニーでの茶会など一人ひとりの体調や気持ちに合わせ行っている。	ホーム周辺には、小学校や幼稚園、保育園、デイサービスなどがあり、子どもたちとふれ合いながら散歩を楽しめる。自然に恵まれ、市街地も近いため、買い物やドライブなどでの行き先も多く、日常的に外出している。	

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族やご本人の希望により、財布を持っていらっしゃる方もある。（お金は使わないが持っていることで安心感がある）		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、職員が間に入り、電話をかけられるよう支援している。携帯電話を持っていらっしゃる方もある。又、手紙を書かれ送られる支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	和室にもコタツもあり、気の合う利用者同士で休まれる事もある。ソファーやベンチも設置しており、休憩や共有のスペースにもなっている。光もその時に合わせた明るさを調節し、温度も一定に保てるよう努めている。	築地松に囲まれた斐川平野の民家をモデルにしたという木造平屋建てのホームは国産の木材がふんだんに使われており、外観、内部環境ともに和の落ち着いた雰囲気を醸している。風景を眺められるホールは、明るく清潔で、キッチンからの料理の匂いも漂って、アットホームさが感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個別の対応を行い、寛いで過ごして頂けるよう環境作り（居場所作り）の工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人が使い慣れている物を持参して頂き、居心地の良い場となるよう工夫し、写真や思い出の品も飾り個性的な空間になっている。	居室で過ごす時間も大切な暮らし。その人らしく、また、プライベートを大切にして、個性を表現出来るよう利用者さんと家族、職員が話し合い、必要な家具を置き、小物、花などで飾り付けをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来ることを把握し、活動出来るよう努めている。安全な生活が送れるよう環境を整えている。		